

【結果報告(速報)】
新型コロナウイルス感染症の
影響についてのアンケート
—当事者の皆さんから寄せられた声—

国立障害者リハビリテーションセンター 企画・情報部
発達障害情報・支援センター
2020年9月4日 発行

アンケート調査へのご協力 ありがとうございました

352名の方から回答をいただきました

今回のアンケートでは、発達障害当事者の方たちが、
新型コロナウイルス感染症の拡大によって、
どのような影響を受けているかを調べました。

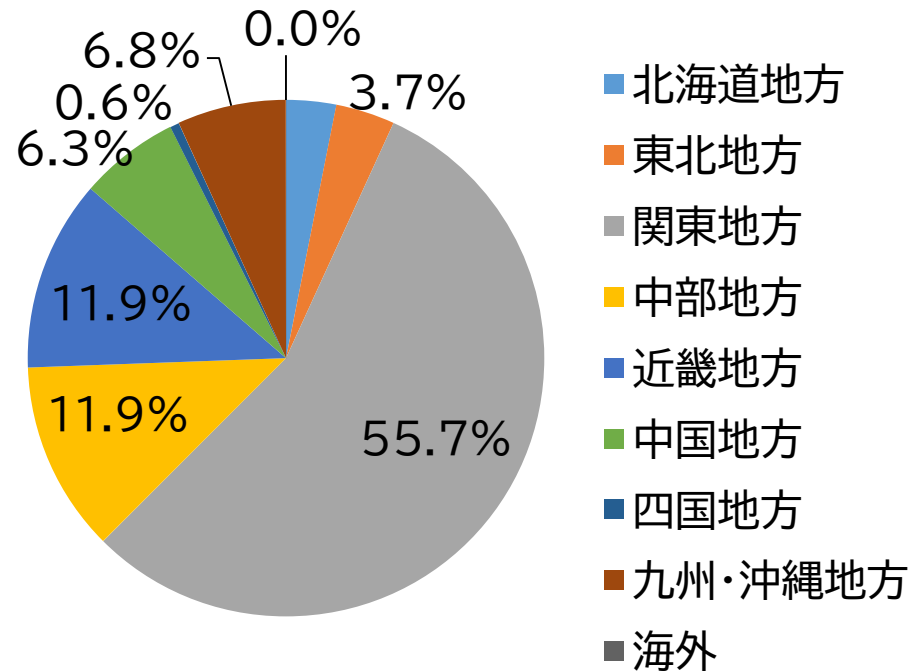
仕事や学校、生活に不安を抱えている方も多くなか、
貴重な声をたくさん届けていただき、ありがとうございました。

今回の報告は、[速報]ということで、
アンケートを単純集計した結果をのせています。

計352名

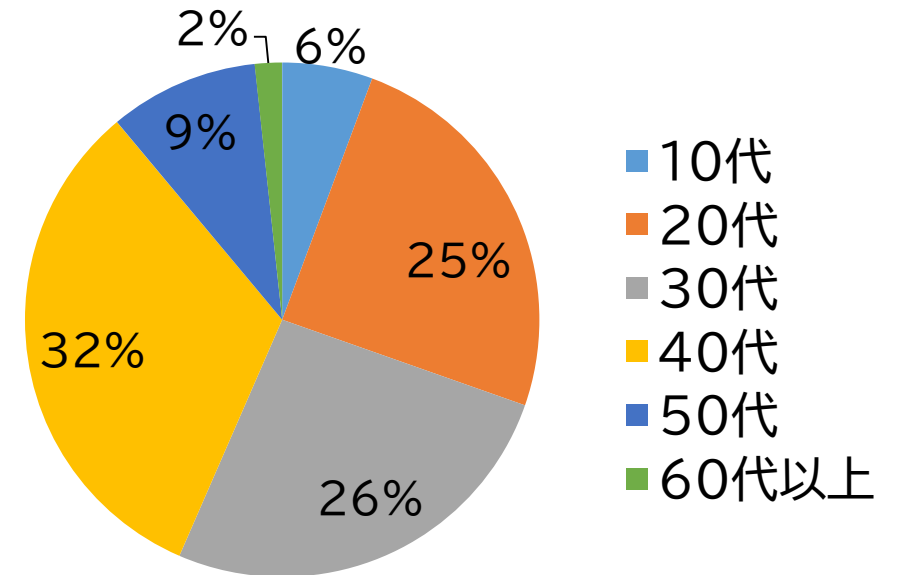
回答した方の基本情報 ①

住んでいる地域



💡 関東地方に住んでいる人からの回答が5割以上でした

年代別

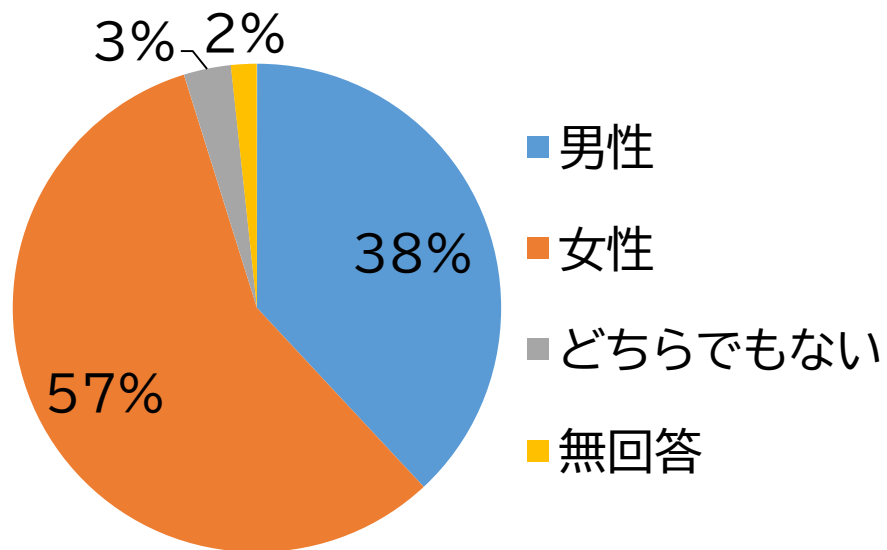


💡 40代、30代、20代の人からの回答が多かったです

回答した方の基本情報 ②

計352名

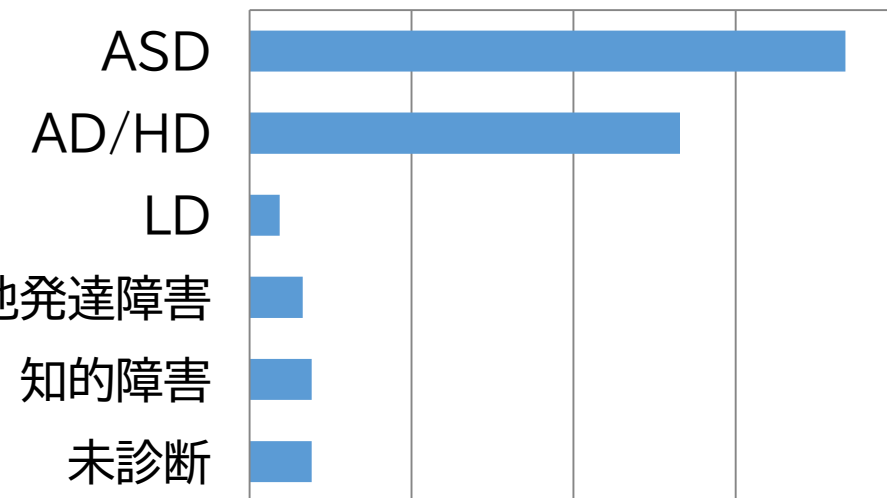
性別



女性からの回答が約6割でした

診断名別

0% 20% 40% 60% 80%



ASD(自閉スペクトラム症)と
AD/HD(注意欠如/多動症)の人からの
回答が多かったです

I. <新しい生活様式> に関すること

新型コロナウイルスにうつらない／うつさないために、
<新しい生活様式> への取り組みが進められています

取り組みの中で困ったこと、大変だったことについて、
当事者の皆さんに答えていただきました

<新しい生活様式>に取り組む中で、 困っていることは何ですか？

[回答が多かったもの]

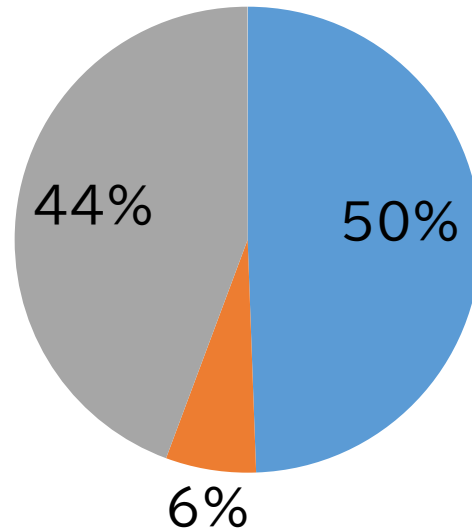
1. 熱中症を防ぐために、時々マスクを外したいが、外してもいいタイミングの判断がむずかしい(48%)
2. オンラインでの申し込みや支払いなど、色々な手続きがよくわからなくて混乱する(34%)
3. ネット通販だと買い物をしすぎてしまい、お金に関する心配ごとが増えた(30%)
4. お店のレジに並ぶ時、どこに並べばよいのか、またはどの方向に進めばよいのか、よくわからなくなる(29%)



マスクを外すタイミングの難しさや、
ネットでの手続き／買い物での困り感を
感じている人が多かったです



マスクの着用はできていますか？



- がまんして、マスクをしている
- マスクをすることがむずかしい
- 抵抗なくマスクをしている

56%



「がまんして、マスクをしている」「マスクをすることがむずかしい」理由

- ✓ 感覚過敏で、マスクが肌にふれることが不快
- ✓ マスクの中に息がこもる、水滴がつくことが不快
- ✓ マスク自体の臭いや、マスクの中の臭いが不快
- ✓ マスクをしていると、集中できず、判断力が下がる
- ✓ 体に熱がこもってしまい、体温調節が難しい など



触覚(肌)などの過敏によって、
マスクをすることに困り感をもつ
人が多くいることが分かりました

マスクをしている時の状況を教えてください

〔回答が多かったもの〕

1. 相手がマスクをしていると、相手の表情がわからない(44%)
2. 相手がマスクをしていると聞き取りにくい時があるが、聞き返すことがむずかしい(41%)
3. 相手がマスクをしていると、ふだんより、言われたことを理解するのに時間がかかる(40%)
4. マスクをしていると、どれくらいの大きさの声で話せばいいかわからない(32%)
5. 相手がマスクをしていると、よく知っている人の顔がわからなくなる(32%)



マスクによって、さまざまな
コミュニケーションのむずかしさが
生じていることがわかりました

対面のオンライン化で むずかしいと感じたことは？

〔回答が多かったもの〕

1. どのタイミングで発言すればよいのか、よくわからなくて戸惑う(46%)
2. 相手の話に集中しにくい(画面に映っている物が気になってしまうなど)
(29%)
3. 3人以上になると、誰が話をしているのか、よくわからなくて戸惑う(29%)
4. ふだんより、言われたことを理解するのに時間がかかる(22%)



他にも、感覚過敏がある人では、**雑音や画面の明るさに疲れてしまった**、という声もありました
(オンラインの機会がなかった人は約2割でした)



<新しい生活様式>が始まって 良かったこと・楽になったこと

〔自由記述より抜粋〕

- ✓ 人と接する機会が少なくなり、人間関係のストレスが減った
- ✓ 在宅勤務で通勤がなくなり(減り)、身体的な疲労が減った
- ✓ 在宅勤務で、自分の好きな環境、静かな環境で作業ができるようになり、集中力が上がった
- ✓ Webミーティングツールや通販の利用など、新たなスキルが身についた
- ✓ 公共交通機関や店内の人が少なく、距離も保たれるので、とても快適だった
- ✓ 電話での診察になり、通院の負担が減った
- ✓ 家にずっといる状態でも、罪悪感を感じずに過ごすことができた
- ✓ イベントがオンラインで行われるようになり、参加しやすくなった



外出しなくてもよくなったことで心身のストレスが減った人や、
新たなことに挑戦した人もいることがわかりました



Ⅱ. 最近の状況と、 これからの生活について

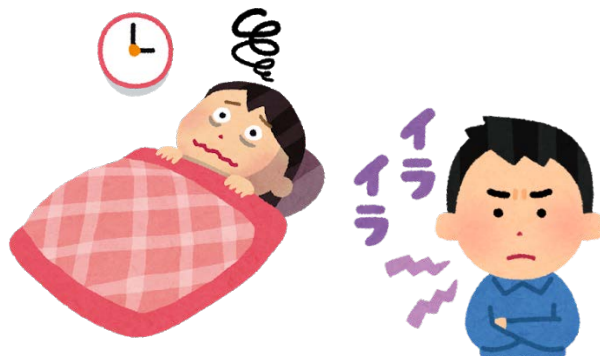
新型コロナウイルス感染症の拡大による社会生活への影響は
今後もしばらく続くと言われています

当事者の皆さんに、最近のご自身の状況と
これからの生活について答えていただきました

最近のあなたの状況を教えてください

〔回答が多かったもの〕

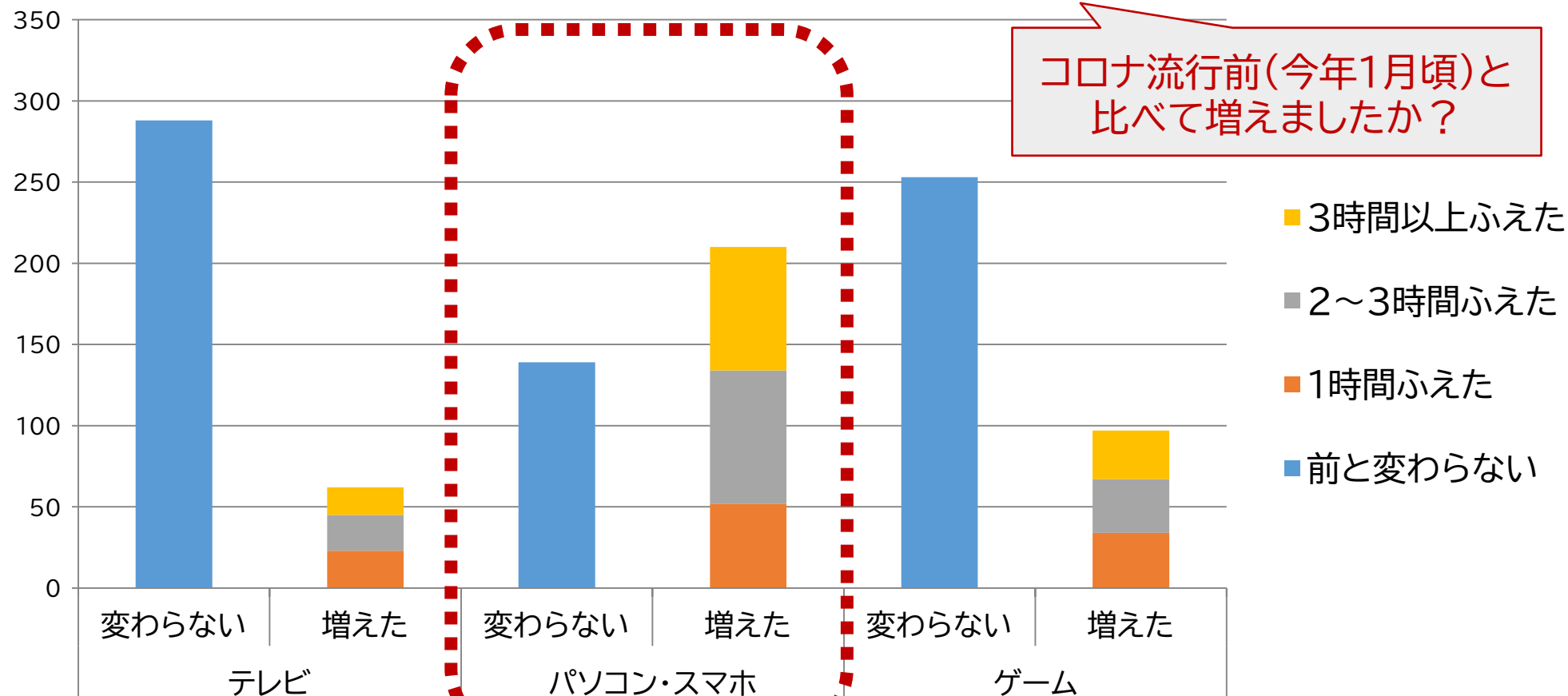
1. 睡眠の問題が増えた(寝つきが悪い、途中で目が覚める、以前より早く目がさめる、昼夜逆転など)(43%)
2. 怒りっぽくなった／気分の浮き沈みが大きくなった(42%)
3. お金に関する心配ごとが増えた(41%)
4. 身体的な不調が増えた／身体症状が悪化した(38%)
5. 食欲が大幅に変化した(減った／増えた)(25%)



これまでの生活が大きく変化し、**心身の不調を感じている人が多くいることがわかりました**

また、仕事やお金の不安を抱える人も一定数いることがわかりました

テレビ、パソコン・スマホ、ゲームをしていた時間は？



パソコン・スマホをする時間が増えた人が多くいました
中には1日3時間以上増えた人もいます

これからの生活について あなた状態や気持ちを教えてください

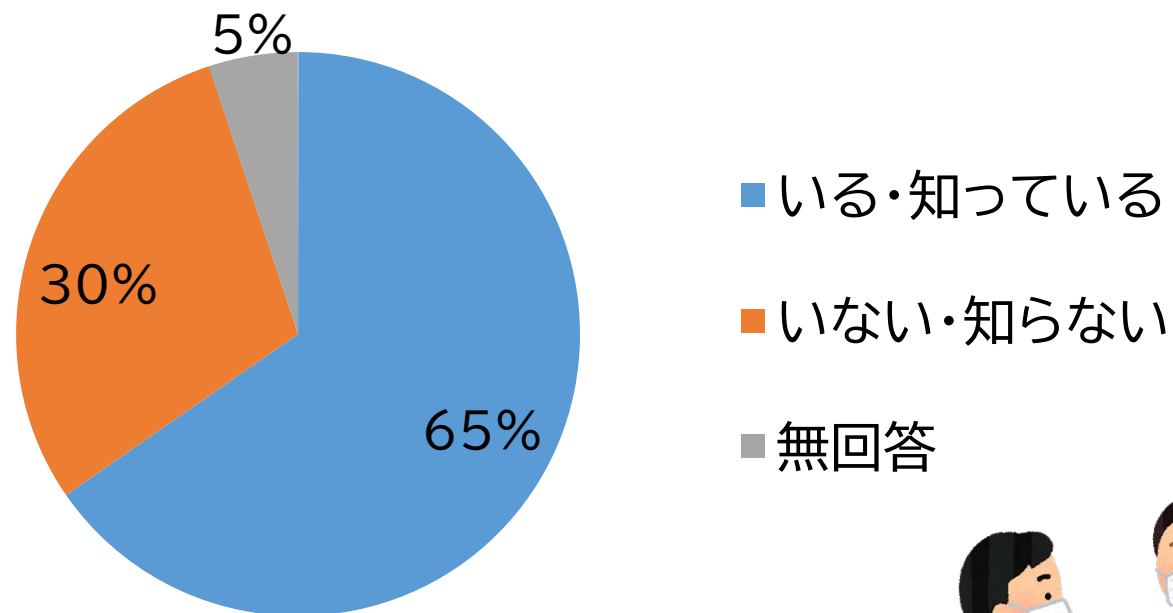
〔回答が多かったもの〕

1. いつまでこの状態(コロナを気にかけながらの生活)が続くのか、とても不安／気持ちが落ち込む(62%)
2. 将来の生活について、あまり希望がもてない(48%)
3. 感染予防に気をつけながら、趣味の時間や人とのつながりを大切にしたい(45%)
4. 学校生活や仕事に、これまで以上の影響が出ないか、とても心配だ(42%)
5. コロナについて色々な情報があふれていて、何を信じたらいいかわからずに、混乱している(35%)



これからの生活について、不安を感じる人が多い一方、趣味や人とのつながりを大切にしたいと考えている人も一定数いることがわかりました

相談できる人・場所は ありますか(知っていますか)?



「いる・知っている」と答えた人が**6割以上**でしたが、
「いない・知らない」と答えた人も**約3割**いました

その他にも、多数の意見(自由記述)を いただきました

失業して、就職活動の
見通しも立たず、
金銭的に厳しい…

外出ができず、
楽しみがなくなったことで、
ストレスがたまる…

生活資金の支援や
支援のための情報がほしい

当事者同士が
交流できる場所がほしい

「控える」、「慎重」になど、
曖昧な表現が多い
もっと分かりやすく言ってほしい

たくさんの貴重なご意見をいただき、
ありがとうございました



おわりに

アンケート結果(速報)を最後までご覧いただき、
ありがとうございました。

＜新しい生活様式＞への取り組みが始まり、
発達障害当事者の皆さんが、どのような困りや変化を
感じているのか、知ることができました。

今回のアンケートでは自由記述によるご意見も
たくさんいただきました。

今後、こうした自由記述部分もくわしく分析し、
ホームページ上でご報告する予定です。

<http://www.rehab.go.jp/ddis/>